

一般演題3 O3-5

腸管気腫を伴った門脈ガス血症に対して高気圧酸素療法を施行した2例

室屋大輔 灘吉進也 今林和馬 甲斐雄太郎
石丸茂秀 下河辺正行

共愛会戸畑共立病院

【背景】

門脈ガス血症は腸管壊死を示唆する予後不良因子とされてきたが、近年画像診断能の向上と共に、軽症例の保存的治療の報告例が増加してきている。また、CT検査で門脈ガスと腸管気腫症を同時に認める症例は重症度が高いことが多いと報告されている。

【症例1】

96歳男性。嘔吐で救急搬入され、CT検査で門脈ガス血症と腸管気腫を認めた。一部空腸に浮腫を認め、腸管虚血を疑う所見だった。腹膜刺激症状はなく、高齢であったため、高気圧酸素療法を主とした保存的加療で改善し、食事開始して第9日病日に退院した。

【症例2】

75歳男性。腹膜播種を伴う局所進行切除不能胃癌に対して審査腹腔鏡および腸瘻造設後3日目に嘔吐と炎症反応高値を認めたため精査のCT検査で門脈ガス血症と腸管気腫症、胃気腫症および脳梗塞を認めた。腹膜炎の所見は乏しかったため高気圧酸素療法を主とした保存的加療を施行した。術後6日目に経腸栄養を開始し、脳梗塞治療および胃癌に対して放射線療法を施行され、術後55日目に転院した。

【考察】

今回我々は、腸管気腫症（1例は胃気腫も）を伴った門脈ガス血症に対して高気圧酸素療法を施行し、保存的に加療できた症例を経験したため文献的考察を加えて報告する。